



# あさひ台

学 校 報  
第 490号  
R3. 12. 24  
五城目小学校

学校教育目標

夢高く 心たくましく 学び合う五小の子  
～ つなぐ ひらく つくる ～



## 復活！五城目小学校「ふるさとかるた」

校長 小玉 史男

馬場目川を渡る渦風が冷気と雪を運び、ここ五城目町にも本格的な冬がやってきました。

これまで元気いっぱい、それぞれ自分の課題に取り組み、順調に成長し続けてきた子どもたちも、いよいよ明日から冬休みとなります。年末年始の行事や家庭での生活の中で、一人一人が活躍し、誰かの役に立てる経験をたくさん積み重ねてほしいと願っています。



さて、校長室前には五城目小学校「ふるさとかるた」が飾られています。「あ」から「わ」まで、絵札と読み札、それぞれ44枚の計88枚と「読み札作品例集」が収められてパネルになっています。第42代校長伊藤恵朗先生による「作製に寄せて」によると、「地域の人々や自然、文化、伝統などとの触れ合いを通して思いやりの心を培い、ふるさとにはたらきかける子ども」を育むために、「体験的・総合的な教育活動に取り組んできた表現活動の総決算」として作製したことが分かります。この「ふるさとかるた」は、「ふるさと学習の成果として得た知識をもとにしたもの、五城目町民に共通する心情を子どもの感覚で表現したもの、子ども自身の体験や感動を率直に表現したもの」であり、「絵はもちろん文字札の文字も全て児童の作品そのもの」です。

いくつか紹介してみたいと思います。

- さ「山内の 文化の象徴 今も舞う」
- つ「つきささる 自然にひびく 弓の音」
- な「なまってる 五城目べんだが 味がある」
- に「においたつ やまゆりのさく 夏の山」
- へ「へいきだよ ふぶきの中でも 集団登校」
- め「名物と 伝とう守って 五百年」



今の子どもたちにも感動が伝わる作品です。時とともに少しずつ変化しているものもあります。こ「五城目の シンボルマークは 回ってる」 その頃は、警察署前で確かに回っていました。す「すずむしと 太鼓の音が ひびく秋」 森山はすずむしの北限といわれていました。て「ていねいに 心をこめて おけ作り」 五城目町は職人の町でもありました。

鍛冶屋通りではいくつもの鍛冶屋さんが並び、クワやカマの刃を削る火花をあちこちで見ることができました。杉の木のおけやお風呂なども作られていました。わが家のお風呂も小学生の頃は、杉の木をすき間なく並べて金属の線で締め上げたお風呂でした。懐かしい。

その五城目小学校「ふるさとかるた」が1月28日(金)の縦割りかるた大会で復活します。

1回目は高学年が44枚からスタートし、15枚を競い合います。中学年は残った29枚の中で15枚を競い、低学年は残った14枚で勝負です。縦割り班ごとに力を合わせて班の勝利を目指します。

「ふるさとかるた」の完成は平成10年度ですから、その当時作製した子どもたちは、現在29～35歳になります。保護者の方々にもかるたを持ってる人や記憶している人もいます。

今年のお正月は、テレビやゲームでそれぞれバラバラに過ごすのではなく、アウトメディアで家族一緒にかるた大会...というのはいかがでしょうか。